

# 令和2年度 夢の樹みどり 事業報告書

## 1 総括

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な制約の中で活動をせざるを得ない状況であった。利用者が楽しみにしている音楽教室やプールなどの屋外活動はほとんど実施できず、入所施設の利用者3名も年間を通して全く通所ができなかった。しかし、感染対策をしながら1年間開所できたこと、特に旅行を実施できたことは利用者にとって大きな意味があったと考える。

また、最重要課題であったPDCAサイクルに基づいたチーム支援についても、少しずつではあるが改善してきている。職員間の情報共有や利用者の支援方法の意見交換などは昨年度と比べ多くなってきているとともに、ケース記録も丁寧に書かれるようになってきた。しかし、一人ひとりの支援計画の背景や到達目標を日常的に意識して支援に取り組む姿勢や支援の効果の検証は全体的に不足しており、支援の実施の有無に意識や記録が偏っているように感じる。職員の約半数が入職後1年以下と経験が浅いこともあるが、先輩職員からの指導も不十分であった。次年度も引き続きこの課題に取り組んでいくが、実践や研修を通じて職員全体で考え、学んでいきたい。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 夢の樹みどり
- 2) 事業種別 生活介護
- 3) 所在地 東京都小平市小川町1-744-1
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 45名(令和3年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成29年4月1日
- 9) 職員 (令和3年3月31日現在)

管理者	1名	
サービス管理責任者	1名	(管理者兼務:常勤換算1.0)
生活支援員	22名	(常勤換算20.4)
看護師	5名	(常勤換算3.2)
嘱託医	1名	

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業（活動内容）

### 1) 就労支援事業

- (1) 資源回収
- (2) 公園清掃
- (3) 使用済み小型家電回収
- (4) ポスティング
- (5) 書類封筒作成
- (6) 紙袋底板入れ
- (7) 缶・ペットボトル潰し
- (8) その他軽作業

### 2) 生活支援事業

- (1) レクリエーション（月2回実施）
- (2) 音楽教室  
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間を通して中止。
- (3) 旅行（年1回実施）
- (4) 運動プログラム（週3日～5日実施）  
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プールは年間を通して中止。
- (5) ストレッチ（週4日～5日実施）
- (6) 夕方生活支援事業（週3日実施）  
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、お風呂、プール、カラオケ、マンガ喫茶は年間を通して中止。

### 3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 神社参拝
- 6月 ゲーム大会
- 7月 公園散策（府中の森）
- 8月 スポーツ大会、音楽会
- 9月 川遊び
- 10月 公園散策（野山北）
- 11月 旅行（茨城県）
- 12月 忘年会
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 動物園見学
- 3月 ドライブ（神代植物公園）

## 6 日課

開所・送迎	8:30～9:30
朝礼	9:00～9:30
活動 （作業・運動PG）	9:30～12:00
昼休み	12:00～14:00
昼礼	14:00～14:10

活動	14:10～15:30
(作業・運動PG)	
実績記入・お茶	15:30～15:50
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:10
GPミーティング	17:00～17:15
全体ミーティング	17:15～17:30

## 7 重点課題・目標

### 1) 活動

#### (1) 目的意識の共有及びコミュニケーションの強化によるチーム支援の実施

- ① 施設長とグループリーダーのコミュニケーション強化  
活動等の状況について情報共有の徹底を図るほか、その情報に基づいた方針等に対する意見交換を密に行う。
- ② 施設長、グループリーダーと職員間のコミュニケーション強化  
①で共有した内容等について、各職員へ随時伝達、意見の聴取等を活発に行う。
- ③ 職員ミーティングの充実  
参加者全員が一つのテーブルを囲む形に座席を配置し、一人ひとりの参画意識の向上を図る。また、全体ミーティングの前にグループ別のミーティングを行い、グループ内の連携強化を図ると共に全体ミーティングの効率化を行う。  
【ミーティング時間】  
17:00～ グループ毎のミーティング  
17:15～ 全体ミーティング
- ④ 業務のあらゆる場面で、職員同士が声を掛け合うことで、協調体制の強化を図る。

#### 【成果と課題】

令和元年度は、施設長と職員また職員間の協同連携の不十分さが大きな課題であった。このことが一人ひとりの無関心さや組織としての成長の妨げになり、利用者支援の形骸化や事故の根本的な原因となったと考えている。そのため、今年度は利用者支援の充実に取り組むためのチームづくりを計画の柱とした。施設長とグループリーダー、また職員間のコミュニケーションは昨年度に比べて改善しており、利用者の支援方法等の意見交換も昨年度に比べると積極的に行われるようになってきている。しかし、利用者一人ひとりの置かれた状況や長期目標の理解の上に支援を行う姿勢や支援の効果の検証は不十分であった。

#### (2) 活動内容と支援の充実

##### — 1F・2F 共通目標 —

- ① 健康管理の充実  
ア、 体重増加予防または減少  
月々の体重データや健康診断結果に基づき、必要に応じて運動プログラムの増加とともに、家庭と連携して食事量の調整等を行う。

#### 【成果と課題】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間を通してプールは全く実施できなかったが、利用者11名が週3日～5日のウォーキングを定期的実施したほか、内2名は家族の要望に

より低カロリーの弁当に切り替える取り組みを行った。全般的に体重減少の効果は出ていないが、増加は防止できている。また、下半期より午後の活動開始前に全員でラジオ体操を行う取り組みを始めた。多くの利用者が意欲的に体を動かす様子がみられた。

イ、 高齢化等に伴う機能低下への対策

バイタルチェックによる健康状態の把握の強化、状態観察により必要に応じた静養など実施。

【成果と課題】

昨年度に脳梗塞を発症した利用者1名に対して毎日、通所時にバイタルチェック（血圧、体温、血中酸素濃度）を行い、グループホームに数値を伝達した。発症後は言語や上肢機能に軽い後遺症がみられたが、ADLは回復傾向にある。66歳の利用者2名については、新型コロナウイルスの影響による入所施設の通所制限により、年間を通して1日も利用がなかった。

ウ、 車いす利用者の身体への負担軽減及び機能維持への取り組み

マットを設置し、車いす利用者の体を伸ばしての静養やストレッチを行い、身体への負担軽減や機能維持を図る。

【成果と課題】

5月から車いす利用者3名の内、2名にストレッチを行った。（残りの1名は他で理学療法を行っているため、当事業所では実施していない）。この取り組みを開始した当初は2名共に多少の拒否反応がみられたものの、概ね1か月を過ぎる頃には積極的にストレッチを行おうとする様子がみられた。

② 新規の活動の開発

昨年度開始した活動の継続、充実を図ると共に新たに希望を聴取するなどにより、利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。

【成果と課題】

利用者全員から聴取した希望を基に、毎月第1、第3木曜日に利用者の楽しみとなる活動を行った。創作活動（絵、塗り絵、図工等、DVD鑑賞、カードゲーム、屋内でのボール遊び）などを昨年度から継続して行い、多くの利用者が意欲的に参加した。ただし、新型コロナウイルス感染防止のため、屋内での活動が中心となった。

③ 作業活動の充実

作業に携わることで社会参加を行い、働きその対価を得る、又仲間と協力するなどの経験から社会人としての成長を図る。

【成果と課題】

全ての利用者が作業に参加する方針で活動を行った。昨年度と比べ利用者同士が協同で作業を行う場面は増えてきている。また、今年度から社会人となった利用者3名についても、時間の経過とともに作業への理解が進み、休憩時間とのメリハリも徐々につけられるようになってきている。

④ 安全確保

1F— 見守りや車椅子の移乗時等の介助は2名以上で行う等、安全対策を徹底することで、下肢機能麻痺や車いす利用者の転倒や接触の防止を行う。

### 【成果と課題】

車椅子移乗時は2名での介助を徹底し、転倒などによる大きな事故は発生しなかったが、椅子に座っている時にバランスを崩し、転倒しそうになる等のヒヤリハットが2件あった。職員の見守りが不足していたことが原因だが、肘掛け付きの椅子を用意しリスク軽減のための取組を行った。

2 F— 一人ひとりにあった環境設定や、分かりやすい予定の伝達により見通しを持ちやすくすることで、利用者の情緒面の安定を図ると共に、見守りや職員配置の工夫を行い、他害、離接等の事故防止を徹底する。

### 【成果と課題】

昨年度に引き続き、朝礼や昼礼時に作業に使用する道具を示し、作業内容を分かりやすく伝えただけ、朝昼礼時の見守りの人数を4名から6名に増やし、突発的な動き等への対応力を強化した。経験による予定の把握や環境への慣れ、また職員による特性の理解などにより多くの利用者の情緒面が安定化傾向にあり、他害や自傷行為は減少してきている。

但し、他害への対応が、周囲と距離を置くことや見守りの強化などの未然防止に終始し、根本的な要因と推測される不安感の解消など気持ちの安定化や他のコミュニケーション手段の獲得への取組みが不足していた。この反省から、他害のリスクがある利用者が集団の中で生活できる力をつけられるように、まずは周囲と距離をとっていた利用者を徐々に集団の輪の中に入れていく取り組みから始めた。少しずつではあるが、時間の経過とともに自ら集団に入っていく場面が見られるようになってきている。効果の検証は今後一定期間継続の後となるが、引き続き取り組んでいきたい。

## 2) 人材育成

### (1) グループリーダー

- ① 各職員の行動に関心を持ち、事業方針に沿った指導や意見を行うほか、活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ② 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密に行う。
- ③ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。
- ④ ケース記録、業務日誌、会議録に関与し、職員へ指導等を行う。

### 【成果と課題】

グループリーダーとしての意識や責任感に向上がみられたほか、各職員と細目にコミュニケーションを取り、支援方法や記録等について指導を行う場面は昨年度と比べ大幅に増えた。

### (2) 生活支援員

- ① 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上を図る。
- ② 伝達や報告の手法、ケース記録やミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上を図る。
- ③ 活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。
- ④ 強度行動障害支援者養成研修を受講し、専門性の向上を図る。(2名)

### 【成果と課題】

利用者とは全般的に良い関係性が作られているが、職員27名中入職後1年以下の職員が約半数を占めており、課題発見や改善策の提案力、職員間の合意形成に必要な知識、技術、経験は全般的にまだ不十分である。強度行動障害支援者養成研修の受講については、2名が基礎研修、

内1名が実践研修をオンラインで受講した。

### (3) 出納職員

- ① 経理業務の正確性と速度の更なる向上を行う。
- ② 各種計算書類の理解に基づく事業所の財務状態の分析能力を向上する。
- ③ 出納職員の候補者を育成する。

#### 【成果と課題】

昨年度と比べ、正確性と速度に向上がみられた。また、新たに出納職員候補を1名選抜し、出納業務の補助（証憑整理や伝票入力）から取り組み始めた。

## 3) 経営管理

### (1) 介護給付費の安定確保

1日平均利用者39.2人（45人在籍、出勤率87%）を目標とする（令和元年度1日平均利用者数36.4人）。また、常勤換算23.5名以上の生活支援員等を確保し、年間を通して人員配置体制加算I型及び重度障害者支援加算を算定する。これにより、前年度比約800万円の増収を図る。

#### 【成果と課題】

4月に新規利用者3名が増え、在籍45名となった。新型コロナウイルスの影響による利用自粛があり（特に入所施設から通所していた利用者3名が年間を通して全く通所できなかった）。1日平均利用者数は36.6名で給付費収入は前年度比450万円増の約1億、3250万円と目標を下回った。ただし、計画通りの加算算定を行ったほか、在宅支援の実施もあり、安定した給付費収入を確保することができた。

### (2) 経費削減

使用していない活動場所の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。

#### 【成果と課題】

全体的に改善しつつあるものの、利用頻度の高い場所（玄関等）の灯り消し忘れは散見された。

### (3) 計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

#### 【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算執行を行うことができた。

## 8 その他の成果と課題

### 1) 社会福祉法人六三四との合同送迎の実施

社会福祉法人六三四と協力し、清瀬方面に住む利用者3名及び同法人の運営するグループホームに入居している利用者1名の送迎を共同で行う取り組みを実施した。これにより、送迎の効率化が図られた。次年度以降も継続して実施する予定である。

### 2) 職員の相互派遣（対象：夢風船）

生活介護事業所間の連携強化及び支援の充実を目的として、年間を通し夢風船と相互に職員を

派遣し合う取り組みを実施し、業務改善に役立てることができた。新型コロナウイルスの影響で一時休止する時期はあったものの、職員2名が各々週1日、計週2日のペースで実施することができた。

### 3) インフルエンザ予防接種の実施

令和2年11月に、感染症対策として利用者及び職員にインフルエンザ予防接種を実施し、年間を通してインフルエンザの罹患者はいなかった。

## 9 事故等報告

### 1) 相談支援事業所による小平市への虐待通報

10月 利用者への強引な誘導により利用者の腕にあざができる事案が発生した。相談支援事業所から小平市に通報があり、調査の結果、虐待事案とは認定されなかった。

### 2) 車両交通事故

令和3年3月 利用者を送迎中に、送り先であったグループホームの門柱に車両のサイドミラーが接触し門柱の一部が破損した。怪我人はなし。

## 10 開所状況

- |         |             |           |      |           |
|---------|-------------|-----------|------|-----------|
| 1) 開所期間 | 自           | 令和2年4月1日  | 至    | 令和3年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数   | 5日間       |      |           |
|         | (2) 開所時間    | 午前9時～午後4時 |      |           |
|         | (3) 年間延開所日数 | 243日間     | (前年度 | 243日)     |
|         | (4) 平均活動時間  | 7時間       |      |           |

## 11 利用状況

- |             |        |      |         |
|-------------|--------|------|---------|
| 1) 利用者延人員   | 8,850人 | (前年度 | 8,839人) |
| 2) 1日平均利用人員 | 36.6人  | (前年度 | 36.4人)  |
| 3) 体験実習者延人員 | 0人     | (前年度 | 39人)    |
| 4) 1日平均実習人員 | 0人     | (前年度 | 0.2人)   |
| 5) 実習者実人員   | 0人     | (前年度 | 12人)    |

## 12 利用者状況 (令和3年3月31日現在)

### 1) 年齢

- |            |     |
|------------|-----|
| 20歳未満      | 11名 |
| 20歳以上30歳未満 | 20名 |
| 30歳以上40歳未満 | 8名  |
| 40歳以上50歳未満 | 4名  |
| 50歳以上60歳未満 | 0名  |
| 60歳以上70歳未満 | 2名  |
| 70歳以上      | 0名  |

### 2) 障害の状況

- |            |     |                        |
|------------|-----|------------------------|
| 愛の手帳1度     | 2名  | (内身障手帳所持2名)            |
| 愛の手帳2度     | 38名 | (内身障手帳所持3名)            |
| 愛の手帳3度     | 2名  |                        |
| 愛の手帳4度     | 2名  | (内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名) |
| 身体障害者手帳1級  | 7名  | (内愛の手帳所持6名)            |
| 精神保健福祉手帳2級 | 1名  | (内愛の手帳所持1名)            |

障害支援区分

平均障害支援区分 5.0

3) 通所手段

送迎車利用 45名 (内1名家族送迎、内1名交通機関利用と併用)

家族送迎 1名 (内1名送迎車利用と併用)

交通機関利用 1名 (内1名送迎車利用と併用)

4) 居住状況

管内居住 34名 管外居住 11名

5) 性別

男性 36名 女性 9名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 3,619円 (前年度 4,217円)

日給 : 221円 (前年度 251円)

1.4 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数 145日 (前年度 148日)

2) 利用者 (令和3年3月31日現在)

(1) 利用者数 28人 (前年度 33名)

(2) 利用者延人数 743人 (前年度 811名)

3) 支援者 (令和3年3月31日現在)

(1) 職員 48人

(2) 職員延人数 646人

4) 内容

(1) ボウリング 15回

(2) カラオケ 2回

(3) 入浴 2回

(4) 散歩 16回

(5) 料理 15回

(6) 室内遊び 18回

(7) パソコン 18回

(8) ドライブ 24回

(9) スイカ割り 1回

(10) 初詣 1回

(11) 音楽鑑賞 5回

(12) ピクニック 1回

(13) 屋外遊び 2回

(14) 映画鑑賞 25回

1.5 生活支援PG実施状況

1) 実施日数 (1) PG実施日数 207日 (前年度 206日)

(2) 週平均実施日数 4.5日 (前年度 4.5日)

2) 利用者 (令和3年3月31日現在)

(1) 利用者数 12人 (前年度 11名)

	(2) 利用者延人数	866人 (前年度 761名)
3) 支援者 (令和3年3月31日現在)		
	(1) 職員	28人
	(2) アルバイト	5人
	(3) 職員延人数	631人
	(4) アルバイト延人数	241人
4) 内容	(1) ウォーキング	866回
	(2) プール	0回

#### 1.6 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

#### 1.7 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。